

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各課程別学位授与プロセスの再設定・周知・公表	→学位授与プロセスの再設定・周知・公表の有無	B	B	B	A	A
2. 博士学位キャンディデート取得後のフォローアップ体制の確立	→博士学位キャンディデート資格取得者数(入学定員の過半数)およびプロセスモデルと一致する学位取得者数	B	B	B	A	A
3. 専門社会調査士資格取得プロセスの明示・公表	→専門社会調査士資格取得者数(入学定員の過半数)および公表の有無	B	B	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	<p><b>A</b></p> <p><b>Do:</b> 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院「授業科目履修心得/教育課程」に「社会学研究科後期課程博士課程取得プロセス&lt;モデル&gt;」を明記。ホームページで公表。大学院科目「先端社会講義」「先端社会講義」にて院生に指導。院生への情報提供・指導の場としてランチ・ミーティングを開催。 ☆</p> <p><b>Check:</b> 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院生は社会学研究科後期課程博士課程取得プロセス&lt;モデル&gt;について、理解が十分に進んだ。 ☆</p> <p><b>Action:</b> 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 先端社会研究所との連携プログラムとして進められたポストGPプログラムを受け、2014年度から大学院生サポートプログラム(Graduate Student Support Program 通称GSSP)を開始した。それらを含め社会学研究科として引き続き体制の整備を進めていく。 ☆</p> <p>その他 ☆</p>
-----	--

<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか                  キャンディデート授与の要件に「博士学位申請論文構成概要書」を加え、このプロセスモデルに沿って2013年度には3名の博士学位授与者を出した。また、大学院生への指導および懇談の場として「ランチ・ミーティング」をもうけ、そのなかで大学院生への博士学位取得につながる研究業績の増加のためのサポート体制を確立した。大学院科目「先端社会講義I」「先端社会講義J」にて院生に指導を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か                  大学院生の研究動機を高めることに成功した。また、日本学術振興会特別研究員として新たに4名(DC2名・PD2名)が内定となり、研究科大学院生の研究が高い評価を受けていることが証明されている(PDは他大学での受け入れ)。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か                  2013年度で終了したポストGPプログラムの後継教育プログラムとして2014年度から「大学院生サポートプログラム」(GSSP)を開始した。2013年度までの教育事業をさらに発展的に受け継ぎ、進めていく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標3</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか                  専門社会調査士資格取得プロセスについて大学院「授業科目履修心得／教育課程」において明示した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か                  2013年度には4名の専門社会調査士を出した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か                  ランチ・ミーティングや「先端社会講義I」「先端社会講義J」などを活用し、専門社会調査士取得者数の増加を目指す。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>備考</p>			<p>☆</p>